

# 絶やしてはいけない伝統野菜 土屋和久

Tsuchiya kazuhisa

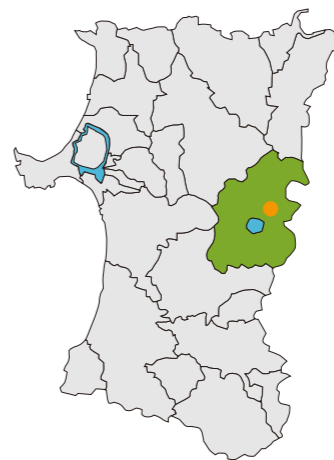
伝統野菜 田沢ながいもの継承物語

秋田県内には長い歴史を持ち、地域の食文化を形作ってきた独自の伝統野菜が30品目ほど認定されています。その中のひとつに「田沢ながいも」があります。5月上旬に種芋の植え付け作業を始め、6月過ぎから弦が伸びてきたら、追肥や病害虫防除、葉面確保のため薬剤散布などを10月頃まで定期的に行います。種芋の栽培も並行して行い、10月下旬〜11月下旬にかけて収穫時期となります。

独特の力強い味の田沢ながいもが「幻の長いも」と呼ばれる由縁は、生産する土壌が大きく影響しています。この田沢地域は玉川の流路だったこともあり、砂地が多く、長い年月の経過で土がバランス良く混ざってきた所です。この場所この環境でなければできない地域限定の作物なのです。生産できる土壌が田沢地域のごく一部のエリアであり、量産化ができないことや生産者の後継者不足という事情も相まって、一般市場に出回ることにはなく入手困難なため、「幻のながいも」と呼ばれています。

土屋さんが横浜市から仙北市の田沢地域に移住して、ちょうど10年になりました。自分で野菜を育ててみたい思いがあり、庭に畑がある空き家物件を約1年がかりで探しました。

## 仙北市田沢



田沢ながいもを掘り起こす作業  
深さは1mを越すことも



人生初めての畑仕事。近所の農家の方々に時々教えてもらいながら次第に交流を深めていきます。そして、3年ほど経った頃、地元を生産農家の方から伝統野菜の長いもがあることを知り、たまたま移住先の住いが「田沢ながいも」畑の近所だったことから、その長いもの栽培をすすめられました。消極的だった土屋さんですが、手取り足取りの指導を受けながら始め、初めて長いもの収穫をしたところ、見事な長いもがたくさんできたのです。地元農家の方から「土屋さん才能あるよ!」と褒められたことに気をよくし本格的に「田沢ながいも」の栽培を始めることになりました。

「素晴らしい伝統野菜を幻のまま絶やしてはいけない」として、「田沢湖に来てくれた観光客やもつと多くの秋田県内の方々にも知ってもらい食べてもらいたい」という思いから、毎年生産量を増やしながら、今では地元への宿泊施設や飲食店の他にも秋田市内の市場にも出荷できるようになりました。今では、収穫体験会の企画実施、SNS配信やラジオ出演など、伝統野菜のことを広める活動も積極的に取り組んでいます。土屋さんは長いも栽培を始めて6年になりました。当初の時期から長いもの収穫方

法は手掘りにこだわり、お客さんを招いて手掘りの収穫体験会を実施してきました。十数名の団体客を受け入れたこともありましたが、通常は1日4〜6名限定で、1シーズン4組程度を受け入れて実施しています。初体験者の方は最初尻込み気味ですが、いざ掘り出してみると夢中になって、1本の長芋を無傷で掘り出すまで30分以上も頑張る人もいるとのこと。この収穫体験者の中から将来は秋田に移住して伝統野菜の生産者になる方が現れてほしいと期待が膨らみます。今後もしも継承していったほしい取り組みだと思っています。



田沢地区の「田沢ながいも」を植えている畑



お世話になっている



畑の師匠



土屋さんのながいも畑



収穫した田沢ながいも

